



## 鉄板ビストロファイヤーダンス：改修工事完了



「いきます!」「はい!」の掛け声と共に「ポウッ」とフランベの炎が上がり、客席まで熱気が伝わってきます。2月にオープンした鉄板ビストロファイヤーダンスの1番の見せ場、提供される食事の調理を間近で見られる木製カウンターの製作を行いました。特注の大きな鉄板で炎を上げる調理があるとのことで、お店のどの位置からもパフォーマンスが見えるようにアイランド（島）型を提案をさせていただきました。天板にはとっておきのストック、天然秋田杉の一枚板を使用し制作しました。お店の入り口側の壁には名栗の板を使用しました。こちらの板は「はかり屋」の共用部の床にも使われている素材で、板を殴って凹凸をつけた素材です。カウンターに合わせて吸気用の大型フードも新設し、フランベで炎が上がっても安全です。大工工事が終わり、続いて塗装屋さんが木肌を保護するように天板の塗装を行いました。また、名栗の部分も丁寧に蜜蝋ワックスを塗りこみました。仕上がった壁に照明が当たると表面に味がでて外からでも目を引く存在となりました。

是非カウンター席を指定してご予約いただくことをお勧めいたします。



■鉄板ビストロファイヤーダンス 南越谷店  
〒343-0845 埼玉県越谷市南越谷4丁目3



越谷市



春日部市



## 置き屋根の家：メンテナンス工事完了

置き屋根の家メンテナンス工事が終了いたしました。前回紹介した洗浄・塗装工事ののちに行った笠木工事、鳩よけ工事について報告します。笠木とは木フェンスの一番上に取り付けられた材の事です。側面の板とは違い、雨や風、日光を一番受ける材料のため、痛みが激しく、腐食も多数見られました。今回は材料を取り替えた後に、保護の為に板金を巻く事にしました。続いて一番頭を悩ませた軒先に居座る鳩の対策です。置き屋根の家は屋根裏の通気をたっぷり取る為、屋根下にスペースがあり、そこを鳩が寝床にしていました。そこで鳩が休める部分にパンチングメタルの板で塞ぐ工事を行いました。木の梁が外部に出ている部分にはプラスチック製の針を設置し、鳩が止まれないようにしました。都会では鳥や動物の行き場が無くなっている事も事実で、家づくり、地域づくりを根本から考えさせられる工事となりました。10年点検に関わらず「ここが不安」「ちょっと変えたい」とお気付きの点がございましたらお気軽にご相談ください。



## 市内自治会館

市内の自治会館で外壁・屋根の塗り替え工事を行いました。玄関ポーチの天井には大きな雨染みがあり、開けてみると、何と構造部分にあたるメインの梁が腐り、今にも天井が落ちるところでした。梁の腐食の原因は、外壁の境目（目地）の部分に気密性・水密性を目的に施工する「シーリング」という合成ゴムが経年劣化によって硬化し、役目を果たさなくなってしまうことが原因でした。木造建築を長持ちさせるにはいかに水から木材を守れるか、乾燥させるのがポイントになります。



越谷市



## トラス梁のお寺

大学時代の先輩でもある、あまね設計さんからのご指名で東京にあるお寺の本堂の改修工事を行うことになりました。耐震改修をメイン工事としながら、全体的な性能をアップさせます。実施設計を行っている段階で、追加の実測調査を行いました。より正確な改修工事を行うためには、設計段階から施工者も協力しながら調査設計を行う必要があります。建築はチームワークが命です!



文京区

設計：合同会社あまね設計



## 電車窓から望む家

1月吉日冬晴れのもと、地鎮祭を執り行いました。



越谷市

見晴らしが良く日当たりが良いのですが、当日はいつも増して風が強く、地鎮祭の準備に苦労しました。身が引き締まる思いで工事の安全を祈願し、早速杭工事が始まりました。今回は構造計算によって基礎も躯体もシンプルになり、建物の重量が軽いことから、地盤に負担が少なく、コストのかからない砕石杭を採用しました。その後基礎工事の過程で、配筋検査を行い、計画通りの鉄筋が配筋されているかを確認しました。人間の体と同様、建物も足元がしっかりしていることで全体が安定します。建物が建ってしまうとやり直しのきかない基礎工事は工事の要でもあります。



越谷市

榊組が設計施工を行ったカフェ 803 の二階で新規工事をさせていただいております。今回はシェアオフィスを作る計画です。12ブースからなる個室が並び、若者や女性を始めとする創業や共同事業を支援するスペースとなる予定です。無機質なコンクリートの箱に木造の梁を思わせる格子を並べるデザインを基本ベースに寸法を割り出しています。全体的にリノベーションの雰囲気が残る空間になる予定です。どうぞ完成をご期待ください。

## オフィス 803

カフェにつづき、今度はシェアオフィスを計画!



## 自然と共に生きる家

越谷市

内部の解体の次は基礎工事。変更間取りに合わせ構造も吟味し、必要箇所基礎を追加しました。大規模修繕の際に、建物の根本である構造を見直すことは、この家の寿命をさらに延ばすことにつながります。その後の外壁工事では、埼玉県飯能市の西川材の赤味の杉板を使用しました。張った直後は綺麗な赤色をしていますが、これが経年変化をしていくと味わい深い銀色になり、また違った家の雰囲気になります。この先の変化を楽しめるのも木の家の醍醐味です。



外観が木の家らしく生まれ変わりました!

